



# さざんか

かとう学園 宗像市立河東中学校  
学校通信第26号(R5. 9. 15)

来週は、第2回定期考査の週です。今回は、5教科のみのテストです。明日からの3連休での計画的な復習と対策がカギとなるでしょう。この一週間、ときにはどっぷりと勉強に浸ってみましょう。

試験勉強を頑張るために、2人の有名な言葉を紹介します。

一人目は、『ピーターパン』の作者・ジェームズ・バリーの言葉です。

**「幸福の秘訣は、自分がやりたいことをするのはなく、自分がやるべきことを好きになることだ」**

二人目は、『人を動かす』などを著したアメリカのベストセラー作家・デール・カーネギーの言葉。

**「勉強がおもしろい“ふり”をすると、それだけで勉強が本当におもしろくなるから不思議だ。疲れをあまり感じなくなるし、緊張も解け、不安もやわらく」**

試験勉強はしんどいものです。でも、バリーやカーネギーの言うように、ちょっとした心の切り替えや心の置き所の工夫で、楽しくおもしろくやれるのでは。好きな“ふり”でやっていると、いつの間にか本当に面白くなるかも。

## 新人戦に向けて～部活動・クラブチームの決意表明 Part5

【 女子陸上部 上野 心陽さん 】

こんにちは。女子陸上部キャプテンになりました上野心陽です。女子陸上部の目標は、新人筑前大会総合優勝、新人県大会8人以上出場です。そのために、日頃の練習から声を出し、チーム一丸となって試合に挑みます。また、一人一人のレベルを上げるために細かいところまで意識し競技力を高めていきます。新チームとなった今、先輩方が築き上げた伝統を崩すことのないように、もっと声をかけ合い、共に助け合いながら、女子陸上部でしかつけないチームをつくっていきます。応援よろしくお願いします。



【 新体操部 樋口 美紅さん 】

こんにちは、新体操部部长の樋口美紅です。私たちは、10月に行われる新人戦に出場します。笑顔を大切にノーミスで演技ができるように頑張ります。本番で練習の成果が発揮できるように、本番は練習のように、練習は本番のように落ち着いて演技ができるように全力で頑張ります。そして、一日一日の練習を大切に日々先生方に注意されていることに気をつけて自信を持って美しく表現豊かに演技します。中2は最後の新人戦なのでノーミスで演技ができるように頑張るので応援よろしくお願いします。



【 美術部 鈴木 美海さん 】

こんにちは、美術部部长になりました鈴木美海です。美術部は、今年から始めた各月ごとのテーマ画で自分の得意分野を伸ばしつつ、部員同士のコミュニケーションを大切にして互いに高め合えるような部活動にしていきたいと思います。行事面では、10月に行われる中文連・県展に向けて一日一日を大切に、今持つ技術をより高められるよう練習に取り組んでいきたいです。また、文化祭に向けての作品作りにも力を入れ、頑張っていきます。どうぞよろしくお願いします。



## “ポジティブスイッチ”って何？

### ～ワントゥーテン澤邊芳明さんが教えるポジティブポイント～

最新のデジタル技術や AI(人工知能)を駆使して、イベントのデザイン演出やウェブデザインで年商 100 億円を稼いでいる京都のベンチャー企業があります。「ワントゥーテン」という会社です。この会社を一代で築いたのが澤邊芳明(さわべよしあき)さんです。今回は澤邊さんのインタビュー記事を紹介しします。

ワントゥーテンは、ソフトバンク社のロボット・Pepper の言語エンジン開発など IT 業界の雄ですが、起業と消滅を繰り返すこの業界で30年近く生き残り発展を続けている稀有な会社です。



実は、現在 50 歳になる澤邊さんは壮絶な人生を歩んできています。

奈良の高校を卒業した春休みでした。受験勉強からようやく解放されて、いかに遊び倒そうかと張り切っていたある夜、後輩のバイクの後ろに乗って走っていると交差点で右から強い光を感じて、直後、強い衝撃で吹き飛ばされました。十メートル先の地面にたたきつけられました。

運ばれた病院で「中枢神経を損傷しているので、もう一生歩くことはできません」と宣告されました。

半年、一年とリハビリを頑張ってもよくなりず、ご飯も口に運べない、まゆ毛がかゆくてもかけない、この体でどうやって生きていくんだという絶望の日々でした。

しかし、ある時、体を治すためのリハビリは一切やめ、できることに集中することに思いました。そして、大学に戻り授業を受けて卒業することを決意します。そのためには、文字が書けるようになると、独学でワープロソフトやパソコンの勉強を始めます。文字の入力は、いくつか試行錯誤してもうまくいかず、最後に消しゴムを先端に付けたはしを口にくわえてキーをたたく方法にたどりつきました。

初めてパソコンを操作した感動はたいへんなもので、画面の向こうでは体の状態に関係なく、かごの中にいる鳥だった自分が解き放たれた気分でした。文字の入力を習得した後は、独学でプログラミングも勉強して病室内でパソコン教室を開くまでになりました。

そして、事故から2年半が経って初めて車いすで大学の門をくぐりました。卒業後に一人でワントゥーテンを起業しました。

その澤邊さんの言葉を一つ紹介しましょう。

澤邊さんは『ポジティブスイッチ』という言葉をよく使います。彼が言うには、

「自分がその物事に対してポジティブになれるポイント、それを見つけることです。何でも受け容れて肯定的に考えよう、というポジティブシンキングとは根本的に違います。

誰も生きていれはうまいかないことがあり、ネガティブな感情、考え方に支配されることがあるでしょう。ただ、どんなネガティブな状況にも『つらいけど、これならがんばれる』というようにポジティブに変換できる点・ポイントが必ずあります。それを発見することが人生を豊かにするんです。」

澤邊さんは、身体的に大変な状況にありながら、置かれた環境の中で何が自分にできるのか、どうすれば自分の力が発揮できるのかを一点に集中しながら考え続けてきました。その点がポジティブポイントです。そこだけにスイッチを入れるという生き方でデジタルデザインの分野で成功し続けてきました。

河東中の生徒のみなさんも、それぞれ一人一人にポジティブポイントがあります。そのポイントを探り当て、ポジティブスイッチを入れてみてください。